

神戸川の河川環境等に関する協議会 議事要旨

日時：平成 29 年 6 月 28 日(水)10：00～12：00

場所：出雲市役所 くにびきホール

【開会】

【協議会趣旨・規約決議】

事務局から資料により、協議会設置の趣旨について説明

続いて、協議会設置要綱ほかの規約について説明し、出席委員からの承認を得て平成 29 年 6 月 28 日から施行

続いて事務局から、「座長」の選任について、学識者の中から「清家委員」を座長とする案が提示され、出席委員から承認

清家座長から、矢島委員を副座長に指名

【神戸川の河川環境の現状と取り組み状況】

資料により、関係機関から説明のあと意見交換を実施

意見交換概要

【飯南町：藤原委員】

- ・ 非常に濁った水が出ている、水質が悪化していると感じる。
- ・ もう何年もアユが育っていない状況
- ・ 河川の流量だけでなく、水質の改善が伴わなければならない。

→【中国電力：塩道委員】

- ・ 来島ダムから濁った水が出ているということについては、中電も水質調査を実施しており下流では、島根県、国土交通省でも行っている。
- ・ 平成 25 年の専門家委員会の報告では水質自体は大きく基準を下回るものではないとされており、また、見た目の着色はあるとご意見は認識している。現在、来島ダム湖に着色現象を抑えるための水質改善装置を導入して対応しているところ。

→【清家座長】

- ・ 水質については今後、調査資料を示すこと。

【出雲市：林委員】

- ・ 古い確認書が廃止され、新しい確認書になったことは良かった。関係者の方々に御礼を申し上げる。
- ・ 昭和 32 年から分水が始まってから 55 年間、ほとんど 2 トンの分水以外神戸川には流されていなかった。
- ・ 神戸川は河川本来の機能を有していない。流域住民の同意書である昭和 29 年の「覚書」で毎秒 2.0 トン以上の放流となっていたものが履行されていなかったため、河川

本来の機能が失われた、今後徹底検証を望む。

- ・ 「今後の 10 年の間に来島ダムからの分水を 2 年間中止し、全流量を神戸川に流すことを要求しているので、中国電力に履行してもらいたいと思っている。
- ・ 我々は、窪田発電所、乙立発電所の減水区間だけではなく、減水区間はダム直下から河口部までと認識しているが、中電はどのような認識でいるのか。
- ・ 我々流域住民は、平成 25 年に来島ダムからの分水廃止をするよう 27000 人の署名を集め、出雲市、島根県、国交省に要請した経過から、孫末代までこのような荒廃した現状で引き継ぐことはできないし、我々の年代で何とか元の神戸川に還元したいという思いでいる。
- ・ 神戸川の水は「公水」であり流域住民のものでもあり、神戸川の維持、流水の本来の機能を呈するような神戸川にしたい。
- ・ 今後 10 年間の検証でいろいろ問題が出てくると思うが、真摯に議論して神戸川が良い方向へ向かうような議論としていただきたい。
- ・ 下流においてかんがい用水が不足しているが、本来は来島ダムから放流すべきものを、志津見ダムが補給している。

→【清家座長】

- ・ 分水の廃止については、この協議会では議論できない議題である。
- ・ 分水の廃止については他の会で検討されること、それ以外のことについて回答をお願いします。

→【中国電力：松村委員】

- ・ 来島ダムから河口まで減水区間かということについては、発電用水として江の川へ分水しているのが減水の考え方であるということについては間違いない。
- ・ 乙立、窪田の減水区間では、河川環境に対する影響が大きいということもあり、今回、2.0m³/s を堰から流しており、良い影響が出ているものと考えている。河川環境、生物の育成状況等について引き続きモニタリングしていく。
- ・ かんがい用水の不足については、平成 6 年の渇水時を例にとると、ダム流入量が 0.1m³/s とかほぼゼロに近い中で来島ダムから補給して 2.0m³/s 流し、その後ダムの水位が下がったため関係機関と調整の上で 1.0m³/s に絞る話をさせていただいたということもあった。
- ・ 下流で水が不足する状況では、上流も水が全く入ってこない状況の中で、ダムの運用で下流の皆様へ水をできるだけ供給させていただいている。
- ・ 来島ダムは発電目的で設置されたダムであるため、下流の皆様のすべての要望には応えられないが、運用の中で最大限対応させていただいていることをご理解いただきたい。
- ・ ご意見、ご要望のあったことについては、今後の議論の中でお話しさせていただきたい。

【出雲市：石飛委員】

- ・ 来島ダムから2トン常時放流されても、7割が江の川へ流れ3割が神戸川に流れてくのが実態、この7割の減水による影響が出ていると我々は考えている。
- ・ 志津見ダムができるまでは神戸川は「パンク河川」という位置づけとなっていた。正常流量が毎秒4,4トンであり、基準渇水流量が毎秒1,01トンの河川である。
- ・ 正常流量の基準となる馬木地点における基準渇水流量が、毎秒1トン程度が過去に5年ぐらいあった。馬木地点から下流に神戸堰などが合わせて毎秒2,05トンあり、10日間程度農業用水が全く使えない状態であった。
- ・ 渇水時の安定的な農業用水を確保するために、河川法上本来は中国電力が補給用のダムをつくるべきところなので、馬木地点での正常流量の確保のために志津見ダムが補給している流量を来島ダムから放流し、志津見ダムの常時満水位を確保すべきと考える。
- ・ 志津見ダムが完成し、水害は心配ないのだから、来島ダムの運用貯水位を10mから13mにあげ、志津見ダムの常時満水位確保に使うべきではないか。
- ・ 志津見ダムの利水容量が空になり、正常流量の4,4トンが確保できないことが今後発生し、「パンク河川」にならないかが一番心配であり、そうならないか質問します。

→ 【オブザーバー 国土交通省出雲河川事務所：沖田副所長】

- ・ 渇水時の対応のためH24年7月に渇水調整協議会を設立している。
- ・ 渇水時にはこの協議会の中で、馬木地点の維持流量4.4m³/sを含め、水を温存できるように調整をさせていただく。

→ 【中国電力：松村委員】

- ・ 来島ダムでは、元々梅雨時期前に12m、台風時期には12.6mで運用していた。
- ・ 平成18年7月豪雨の際に来島ダム洪水時操作等検討委員会を立ち上げ、志津見ダムができるまでは水位を2m下げる運用とされ、志津見ダム運用開始後もこの運用を続けている。
- ・ 渇水時における安定的な環境放流、常時2.0m³/s供給を確認書で約束した、これを守るためには、ある程度の水のストックが必要、また出水時に水を溜めることができればその分を発電に使えるし、洪水時にある程度安心があるかもしれない、この相反するバランスの中で運用している。
- ・ 目標水位については、皆様の議論を踏まえて決めていくことになるのではないかと。

【出雲市：山本委員】

- ・ 渇水時の農業用水の確保のため、志津見ダムの洪水吐の下まで満水として、来島ダムからの環境放流量を毎秒2.0m³以上に増やしてほしい。
- ・ 現在、来島ダムから常時毎秒2.0トン流されているが、志津見ダムの水位が常時満水位から3.3m下がり、210万トンも減少しており、雨が降ってもダム湖の水が入れ

替わらない状況となっている。

来島ダムからの環境放流量を毎秒 2.0m トン以上に増やして志津見ダムの常用洪水吐まで水位を上げる運用とし、上流の降雨時にすぐに水が流れるようにならないか。志津見ダムが常時満水であれば、下流へ流れる水はきれいになることからうまい米を作りたい。

- ・ 志津見ダムの上流で雨が降り増水しても、貯水池に水が流れ、入れ替わることはなく水は汚れ、志津見ダムで水が入れ替わらず、滞留しアオコが発生して水質が一段と悪化している。
- ・ 昭和 58 年の「確認書」の毎秒 2 トンが限度の項目がなくなった今、昭和 29 年の農民との同意書である「覚書」に基づいて来島ダムから毎秒 2.0 トン以上の放流をしてもらいたい。
- ・ 神戸堰左岸の上木入道用水ですが、下流では農業用水の水が不足しており、保知石川という下水路から 2 か所もポンプアップして補い米を作っている状況である。よい水を使ってうまい米作りができるようにしたい。

→【清家座長】

- ・ 水質については今後の議論とする。

→【出雲市：池田委員】

- ・ 神戸堰での流量は志津見ダム計画当時の流入量を満たして用水路に入っていると認識している。
- ・ 神戸川流域については、沈下した部分や、一部で水路の修繕が必要な箇所があり、下流では十分な用水が流れていないと聞いている。代表の委員とお話をしながら、今年度、現地調査を行い、再度調整して行くので、ご理解いただきたい。

【出雲市：吉田委員】

- ・ 馬木堰では慣行水利権により十間川へ取水しているが、下流の神門、神西は水が足りていない。
- ・ 馬木堰で取水量を毎秒 2, 4 トン程度に増やせるような対応をしてもらいたい。
- ・ 下流部では生活排水をポンプアップして用水に使用している。流入量を増加し流況が改善すればきれいな水になる。
- ・ 神戸川のきれいな水で米作りができるように改善していただきたい。

→【出雲市：池田委員】

- ・ 馬木樋門では、管理人に流量、樋門の調整をしていただいております、下流で水深 90 cm のときに毎秒 2.0m³/s 程度の流入量になる。
- ・ 下流約 2 km のところで用水路のかさ上げをしていない部分でオーバーフローしてしまうため、管理人に流入量を調整していただいているのが現状。今後、現地で調整

させていただく予定。

- ・ 水が不足している時には、河川からポンプアップで対応されている、これは市内各地区同様な状況、意見交換の中で調整させていただく。

【出雲市：片寄委員】

- ・ 関係者がそろって同じテーブルで意見交換できることは良いこと、期待している。
- ・ 神戸川がきれいな状況が続くように関係者の努力をお願いする。
- ・ 初めての委員もいるので、神戸川・来島ダム・志津見ダム、河口の現地視察を計画してもらいたい。
- ・ 今年は渇水年であり馬木地点で毎秒 4, 4 トンがギリギリの状態が続いている。志津見ダムの水位が常時満水位から 3. 3 m 下がり、漁業の観点からすると滞留した水が出てくることからダム直下流においてはアユが全く住めないというのが実態である。
- ・ 下流部の乙立、朝山でもアユが取れない。
- ・ 雨が降ってもダム湖の水が入れ替わらない状況となっている。
- ・ 窪田、乙立発電所の減衰区間が全く流れていなかったのが、来島ダムの毎秒 2. 0 トン放流増加の効果はある程度出てきている。
- ・ 中国電力では河口まで減水区間であることを認められたが、以前は中国電力が神戸川河口で、ブルドーザを置いて河口閉塞の改善を即対応してもらったものである。
- ・ 近年、中国電力は、河口閉塞対策から撤退している。
- ・ 国土交通省、中国電力で連携して河口閉塞への対応をお願いしたい。
- ・ 異常渇水時には来島ダムから毎秒 2. 0 トン以上の放流をできるように水中ポンプ等他の方法を中電は考えるべき。
- ・ 互いに歩み寄ることも必要、真摯に議論していただきたい。
- ・ 中国電力の生物調査ではアユなどが減水区間でいい結果が出ているが、組合員の認識では毎秒 2. 0 m トンの効果はそれほどでもないという意見を聞く。
- ・ これから、1 0 年間で今以上の魚が住めるきれいな川になるようにしていただきたい。

→ 【清家座長】

- ・ アユの問題については、他の検討会でしっかり検討されとのこと。
- ・ 今後、検討会からの情報提供も可能

→ 【中国電力：塩道委員】

- ・ 2. 0 m³/s 以上放流という点については、今回の確認書で 2. 0 m³/s を約束し、これをきちんと守っていくということ。
- ・ 相互歩み寄るという気持ちであるし、どのような仕組みでこれまで水が流れていたのかを説明して、「ああ、そうだったのか」というようなことも、ご理解していただきたい。
- ・ 下流の 4. 4 m³/s の正常流量を守るために、来島ダムが 4. 4 m³/s を流すのではなく、

下流にある支流からの水も含めて馬木で 4.4m³/s の正常流量ということをご理解いただきたい。

- ・ これまでいろいろ説明不足であったことについては、これからきちんと説明をさせていただきます。

【出雲市：深井委員】

- ・ 志津見ダム直下の水質が当初予想しなったほど非常に悪化している。
- ・ アユの漁場が悪化している。
- ・ 志津見ダムについて、渇水時に補給をするという話は聞いたことがない。
- ・ これからは水質について、国交省と来島ダムの中国電力には考えてもらいたい。
- ・ 来島ダムの取水口の位置は来島ダムえん堤からどのくらいの距離、有効水位からどれくらいの深さにあるのか。
- ・ 頓原川の貯水池合流地点より上流に取水口があり、頓原川の水は神戸川を上流のほうに逆流する。赤名川が来島ダムに流入するが、発電用に取水した場合その流速によって赤名川の水は江の川に流れる。頓原川から下流には、水が滞留し水質がどうなるのか。
- ・ 水量は十分に流れるようになっているが、「よどんだ水」「うるんだ水」解消していただきたい。
- ・ 来島ダムで発生した「よどんだ水」「うるんだ水」が、志津見ダムに流れ込み再び志津見ダムで滞留し「よどんだ水」「うるんだ水」が志津見ダムから流れるということになっている。
- ・ 志津見ダムで常時満水位から水位が 3 m 以上も低下しており、貯水量が減少することや水温上昇によりさらに「よどんだ水」「うるんだ水」が発生している。
- ・ きれいな水が出るように志津見ダムを常時満水位の運用としていただきたい。

→【中国電力：塩道委員】

- ・ 取水口の位置はゼロメートル水位が標高 336m であり、ゼロメートル水位から 3 m 程度下がった位置に取水口の敷きがある。
- ・ ダム湖の水質については、水質改善装置を導入し対策を実施中、今後数値を示しながら説明したい。

→【国土交通省出雲河川事務所：沖田副所長】

- ・ 志津見ダムは建設当時から利水も目的の一つであり、河川環境の保全に必要な水を含め馬木地点の正常流量 4.4m³/s を確保することとしている。

【出雲市：布野委員】

- ・ 外園海岸は、昭和 20 年代から 40 年中ごろまでは地引網などで、イワシ、タイ、アジ、

ヒラメ、サバなどがとれ、ハマグリも大量にとれる自然豊かなくにびき神話の「菌の長浜」でした。今ではほとんど取れなくなっていました。

- ・ 神戸川の水量不足によって、河口に砂が堆積し河口閉塞により船の往来ができない状況になった。
- ・ 外園の海岸侵食が深刻になっている。昭和 40 年代までは、浜で野球ができるほど広がった。今では 10～15 メートルくらいしかない。地引網を引くことも支障が出てきている。
- ・ 神戸川上流からの水量が増えれば、川上からの土砂の流入が増え、サンドバランスが維持され砂浜の拡大が期待されると思う。
- ・ 神戸川のすべての水を戻してもらいたい。
- ・ 来島ダムの堆砂量はいくらか。
- ・ 志津見ダムを常時満水位による運用とし、上流での降雨がそのまま流下するようにお願いし、河口閉塞の改善となり、海岸侵食の改善にもつながる。

→【中国電力：塩道委員】

- ・ H28 年度の来島ダムの実績堆砂量は、1,700,000m³ 前後と推定

【出雲市：松尾委員】

- ・ 中国電力は八幡原堰、窪田堰で魚道改善したと発言されたが、この堰がなければ発生しない問題を来島ダムに関連した事柄として分水を議論しているテーブルに取り上げる事自体、分水問題の本質を理解していない。分水を議論する会議の合理性を損ねている。
- ・ 来島ダムから河口まで減水区間として認められたが、減水による様々の現象の主たる責任は中電にあると理解して良いか。
- ・ 来島ダムの利用流量、分水量及び水質のデータが示されていないため、示すべきではないか。
- ・ 今後の進め方として、分水の是非をこの場で議論したいと考えている。

→【中国電力：松村委員】

- ・ 神戸川の水が減っているのは事実、河川的环境については様々な要因があることということもあるので、この会を通じて議論したい。

→【清家座長】

- ・ 中国電力だけの問題でもないこともあると思われるので、次回以降の議論とする。

【出雲市：石飛委員】

- ・ 次回の資料の要望
- ・ 以下の地点の流況表と流況グラフをそれぞれ作成すること。
- ・ 来島ダムは昭和 31 年～、馬木地点、神戸堰は国交省データにより昭和 36 年～、)

① 来島ダム、②八神地点、③志津見ダム、④馬木地点、⑤神戸堰

来島ダムがあった場合と無かった場合のグラフを作成し重ねて提示してもらいたい。

【清家座長】

- ・ 事務局で論点整理をお願いする。
- ・ 次回はそれを元に協議していく